

審議会等の会議結果報告

| | |
|------------|--|
| 1. 会 議 名 | 第2回情報のかけ橋委員会 |
| 2. 開 催 日 時 | 令和3年12月20日(月) 午前11時00分～午後1時00分 |
| 3. 開 催 場 所 | 松阪市役所 5階特別会議室 |
| 4. 出席者氏名 | (委員) ※敬称略 <small>副市長</small> 永作友寛、山守一徳、川口正人、酒井由美、中北直子、中谷 仁志 (事務局) <small>危機管理特命理事 広報広聴課 課長</small> 船木精二、武田誉利子、小林祐規、垣本大 |
| 5. 公開及び非公開 | 公 開 |
| 6. 傍 聴 者 数 | 0 人 |
| 7. 担 当 | 松阪市 秘書広報局 広報広聴課 TFL 0598-53-4312 FAX 0598-22-1119 e-mail kouhou.div@city.matsusaka.mie.jp |

議題

1. 委員長あいさつ
2. SNS等の運用状況について
3. 広報広聴課からの報告
4. 行政チャンネルについて
5. 市ホームページについてのご意見
6. 次回委員会の日程について

議事録

別紙

第2回情報のかけ橋委員会 議事録

日時：令和3年12月20日（月） 11:00～13:00

場所：市役所5階 特別会議室

事務局 令和3年度第2回情報のかけ橋委員会を開催します。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。前回欠席されました中谷委員が出席いただいていますので、一言ご挨拶いただきます。

（中谷委員あいさつ）

事務局 ありがとうございます。それでは事項書に沿って進めさせていただきます。

1. 委員長あいさつ

委員長 こんにちは。先日、横浜でお城 EXPO が開催され、今回松坂城が初めて出展するというので、その様子を見てきました。100ほどの自治体が出展されていて、大きな会場でたくさんのお客さんが来ていました。松坂城のブースには、小学生ぐらいの子が「蒲生氏郷が好きなんです。」と話していて、各ブースを見てみると、熱心なファンの方もおられました。コロナ・オミクロン株と話題になっていますが、それを感じさせないほどのたくさんの方が来場していて、こんなにも人の動きがあるのだと感じました。

また、先般テレビ番組で市内の和菓子店が取り上げられ、翌日偶然私の甥が訪れると売り切れていたということで、情報が出ることの効果がこんなにもあるのだと改めて感じたところです。

本日の事項書にもありますが、情報発信について、市民に対する情報発信と、アフターコロナにおける誘客など対外的な情報発信とで、どの部署が対応するのか、今はそれぞれの部署で行っている現状にどうなのかと思う部分もあります。他の自治体では、対外的な情報発信の部署を設置しているところもあります。以前にご意見いただきました人員配置も含めてご意見をいただけたらと思います。よろしく申し上げます。

2. SNS等の運用状況について

事務局 12月20日現在の、市SNS等のフォロワー数を報告します。
FACEBOOKのフォロワー数2,196人、令和3年10月25日、前回委員会から6人増加。Twitterのフォロワー数3,285人、前回から44人増加。Instagramのフォロワー数3,810人、前回から207人増加。YouTubeのチャンネル登録者数1,830人、前回から110人増加。松阪ナビのダウンロード数18,696、前回から501増加。

3. 広報広聴課からの報告

事務局 前回委員会でご提案いただいた改善点について報告させていただきます。

- ・（広報まつさか）表紙の空きスペース（タイトル下）にちやちやもスタンプの宣伝を挿入
- ・（広報まつさか）まつさか情報広場内の広告に「広告マーク」を挿入
- ・（広報まつさか）「ベルファーム便り」のロゴ（フォント）を変更
- ・（広報まつさか）松阪コミュニティに掲載方法等を記載したホームページへ誘導するQRコードを掲載。

4. 行政チャンネルについて

事務局 資料①について説明。

行政チャンネルにおける今年度の取り組み、課題について、説明いたします。今年度制作した主な番組として、新規では「巨匠×松阪」という番組を制作しました。この番組は、相可高校元教諭の村林新吾さんが、今年4月に「まつさか食のまちアドバイザー」に就任したことから、地域ブランド課と連携し、松阪の旬の食材を使った料理を紹介する番組となっています。次に継続番組になりますが、「竹上真人の〇〇な話」を制作しました。竹上市長自らが出演し、市政の取り組みや松阪の魅力について発信する番組です。13回目となる今回は、国史跡指定10周年、日本100名城登録15周年を迎えた「松坂城跡」にスポットを当て、松坂城の石垣の特徴をはじめ松坂城跡の魅力をお伝えしています。続いて、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける市内飲食店の支援として、飲食店をPRする動画「ウチの逸品」を現在制作中です。昨年度は「焼き肉」や「すき焼き」など「肉」をテーマに第1弾～第5弾まで制作しました。第6弾となる今回は、市内の多くのうどん店でカレーうどんが提供され、市民に親しまれていることから、「カレーうどん」をテ

ーマに動画を制作しています。ここまでが今年度制作した主な番組となります。

続いては、行政チャンネルの今後の課題についてですが、一つ目が「5分番組の更新」です。現在、5分枠として毎時25分から「はるるクッキング」、毎時55分から「こんにちは！包括です」を放送しています。今後これらの番組をどのように継続していくのか、番組が終了した際に、新たな番組をどうしていくのが課題です。

二つ目は、「特集番組の制作」です。これまでに、松阪の歴史文化をはじめ、健康情報など5分～20分程度の番組を放送してきました。今後も視聴いただけるようなテーマを検討し番組づくりを進めていきたいと考えています。

三つ目は、「行政情報番組『アイウエーブまつさか』のオープニング・エンディング等の更新」です。現行のオープニング・エンディングは、制作から2年ほどが経過していることから、新たなものを作っていく必要があると考えています。

以上で説明を終わります。それでは、このあと今年度制作した「巨匠×松阪」の映像をご覧いただき、ご意見を頂戴したいと思います。よろしく申し上げます。

(「巨匠×松阪」視聴)

委員 「巨匠×松阪」について、掛け合いもあり多少時間が長いと感じた。松阪の旬の食材を使っているということだが、料理のタイトルには、松阪の食材の記載はないことから、一目でわかるようなタイトルにしてはどうかと感じた。あとは、この動画のターゲットは、どのような方を対象にしているのか教えてほしい。

事務局 匠が教えるとしつつもご自宅で簡単に作っていただくということで、ご自宅で料理をする方を対象にしています。また、併せて、松阪にはこんな旬の食材があるんだというPRも兼ねています。

委員 動画は、YouTubeで公開しているが、レシピ本とまではいかないにしても、スーパーで小さいサイズのレシピが配られているので、YouTubeチャンネルへの導入も含めて、そのような取り組みもいいのではないか。

委員 料理番組だと、単発というよりは定期的に継続してアップされるのが良いのではないか。YouTubeには、料理番組の動画がたくさんアップされている。その中で、いかに動画を見てもらうかが大事。ど

のような方策を採られているのか。

事務局 現在は2本まで制作しているが、この番組は、旬の食材を紹介する番組なので、ご意見を念頭に制作を進めていきたいと思ひます。

委員 高校生が出演することで、若い人たちに見てもらふことにつながるのではないか。

委員 「巨匠」とタイトルにあるので、今回は料理だったが、アートや文化といった他分野にも巨匠はいると思ふので、そういう方に出演いただくと、バージョンアップ、より幅が広い番組が作れるのではないか。

事務局 いただいたご意見を参考に今後の番組制作に生かしていきたいと思ひます。あと課題で挙げました特集番組の制作ということで、今後どのような番組を作っていけば良いかなどご意見はありますか。

委員 5分番組の「こんにちは！包括です」とあるが、この「包括」という言葉はよく使う言葉なのか。浸透しているのか。

事務局 「包括」という言葉がどこまで浸透しているかの把握はしていませんが、地域包括支援センターを利用されている方などは、普段から「包括」と呼び慣れており、馴染みはあります。そういった経緯も踏まえてこのタイトルとなっています。

委員 先日、小津安二郎記念館に関するイベントがあり思つたのが、記念館では、松竹さんが制作した動画を流している。権利などの制限はあるかもしれないが、そういった動画を特集として活用するのも良いのではないか。

また、先日民放番組で松阪を紹介された時、松阪を紹介するきっかけとして、以前クイーン松阪をされていた方が出演していた。県外にいる方から松阪をクローズアップしてもらふという新しい視点もあるのだと感じた。

委員 三井高利の生誕400年を迎える。徹底的にシリーズで特集して、市民の方に三井高利を知ってもらふ番組を制作してはどうか。いろんなつながりがあると思ふので、広がりがあると思ふ。

委員長 来年からは、偉人をはじめ様々なことで周年記念を迎える。うまく

活用して情報を発信していけると良い。そのためには、人員配置を含めて組織体制を整える必要がある。課題はあるがチャンスでもあると思う。三井高利が松阪出身だと全国でどれだけの方が知っているのか、小津安二郎は映画界で世界的に有名であるなど、PR資源はある。今年度国際交流員を観光交流課に配置した。これから対外的な情報発信にうまく活用していきたい。

委員 今松阪は、民放でよく取り上げられている。

委員長 民放などのメディアへの情報発信は、非常に有効。面白いと思ってもらえれば、取り上げられる。ただ待っているだけではダメで、プレゼンが重要になる。

委員 市内で取り上げられている店舗は、自らの発信もあるだろうし、一度取り上げてもらうことで、他のテレビ局で取り上げてもらうようになってくるのではないか。

委員長 情報発信は行政が行うべきなのか、個人や事業者が行うべきなのか。行政では、店舗を絞っての紹介はなかなか難しい。

委員 やはりインフルエンサー。SNSで松阪市とハッシュタグ付けて投稿するだけで、たくさんのフォロワーに情報を発信できる。そういったインフルエンサーに依頼するのも良いと思う。

委員 個人的な趣味でメタバースをしている。仮想空間でマイクを使って会話などができる。自治体が最先端の新しいことに取り組むことでそれが話題になる。

事務局 対外的な情報発信の戦略として、担当する部署は決まっているわけではありませんが、当課においてもシティプロモーションを考えていけないといけません。特化したキャッチフレーズは必要でしょうか。

委員 ホームページでワードを検索した時に引っかかってくるのが重要。そのために引っかかるようなワードをフレーズにするのは良い。今までにないフレーズで作るのも面白い。

委員 松阪は見方を変えると資源が豊富すぎる。尖がったフレーズにすることで目立つ。

委員長 より多くの市民の方に正確な情報を伝えるのは基本として、対外的な情報発信をどのようにしていくか。ホームページのほか、SNSなど様々なツールを活用していくのが良いのか。ホームページをより見やすく充実したものにすることが良いのか。事務局とも話をしている。

委員 人の関心がどこにあるかを考えたときに、人は幸せになれるということに関心を抱くように感じる。

5. 市ホームページについてのご意見

事務局 時間の都合上、次回の委員会で審議することに決定。

6. 次回委員会の日程について

事務局 令和3年度第3回情報のかけ橋委員会は「令和4年2月3日(木)午後1時」より開催予定とします。

以上